広報 あさひまち
ASAHI-MACHI
11 1990 NOV. 月号 NO.408

シリーズ〝働く〟

〝蕎麦（そば）〟と〝神輿（みこし）〟がはちまきに交差

「インスタント食品が多い中で私の店では、手打ちそばはもちろん、しょう油を煮返してたれをつくる〝本返し〟まで自家製でやってます」と手づくりを強調するのは、長岡和浩さん（本町・29歳）。

高校を卒業すると家業のそばやを継いで十年目。「手打ちそばは、毎日つくっても、その日の気温や湿度の関係で味が微妙にちがう。そば打ちは一生修業ですね」とも語る。

趣味はおみこしを担ぐこと。みこし愛好会のメンバーとして、年五～六回は町内外でお祭りに参加する。

そばとみこしという日本の伝統文化が、彼のねじりはちまきに交差する。

「朝日自然観」おかげさまで一周年

自然と人間の共存をメインテーマとした朝日自然観は、昨年十月五日にグランドオープンしました。

一年間を振り返って自然観の現状や課題、そしてこれから21世紀に向けての経営戦略について、直接経営にあたられている白井支配人にお話しをうかがいました。

朝日自然観
支配人　白井淑浩さん

町民みなさんのご協力に感謝

佐藤　朝日自然観が昨年の十月五日にオープンしてちょうど一年になりますが、町民のみなさんはたいへん喜んで利用しているようですね。

今日は、一年を経過した自然観についていろいろお話をうかがいたいと思います。

まず始めからお金の話で恐縮ですが、収支状況についてはどうでしょうか。

白井　平成元年度の決算については、町議会広報でお知らせしましたが、特別会計では約八百万円の黒字となっています。しかし、このほかにホテル、リフトなどの設備投資やオープン式典の経費、CI導入、マスコミの宣伝経費などは、全て町の一般会計から支出されています。

自然観は独立採算性を建前としていますので、これからも経営に一層の努力が必要です。

この一年間を振り返ってみると町民のみなさんから大変なご協力をいただいたと感謝しております。それは、宿泊のお客様に対して行っているアンケートなどをみますと大半の方が、町民のみなさんの口コミでお出でいただいたということです。

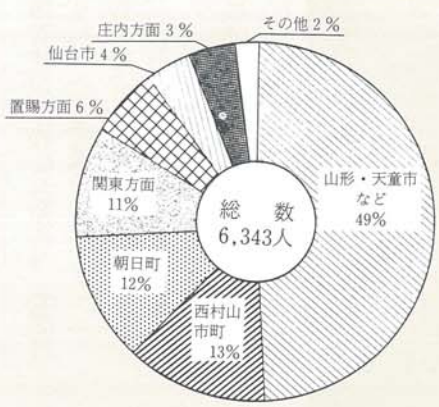
佐藤　町民も私たちの自然観だという意識でおおいに宣伝してくれたということですね。

そのお客様が今度は二度、三度と来ていただかなければならないわけで、そのための工夫という点ではどうでしょうか。

白井　そうですね。この一年間にお泊まりいただいたお客様をみますと、町内の方が12%、県外の方が15%、となっています。詳しくは左のグラフをご覧いただければ分ると思いますが、そのようなことで料理のメニューには特に気を使っています。

地元のみなさんは、ここまで来て山菜は食べなくてもよいといいますし、都会の方は、海の魚の刺身などは食べたくないといいます。

自然観は〝やすらぎ〟〝いこい〟そして〝ふるさと〟をメインテーマとし、それに添ったメニュ



ホテル宿泊利用者内訳
（平成2年10月～2年9月）

ーや整備を進めています。
また、周辺の環境整備についてはできるだけ広葉樹林を残したいと考えています。コテージやゲレンデを造る場合も広葉樹林の伐採は最少限に止どめました。ですから、お出でになった方はブナやナラを見るとホッとするといいますし、コテージに泊まって、ブナ林から差し込む朝の光は何ともいえない感動だという声なども耳にしています。

「ワイン館」や「第四ペアリフト」を建設

佐藤　私もコテージを利用しましたが、とても気分の良いものですね。土曜日などは若い人たちが夏はテニス、冬はスキーとコテージを利用して遊んでいるようですが、これからどんな施設が造られる予定なんでしょう。

白井　ひとつは現在四面のテニスコートがありますが、さらに四面増やして八面にする予定です。また、ワイン館や何時でもバーベキューを楽しめる広場が、テニスコート南側に今年中に完成する予定です。それから、スキー場関係では第四ペアリフトが最大斜度34度のエアートップゲレンデに建設され、今年の冬から利用できるようになり、ますます変化に富んだスキー場になります。

その他、駐車場や池、遊具施設なども順次整備することにしています。

佐藤　それは楽しみですね。ところで、自然観の施設というものではありませんが、空気神社についてはどうですか。

白井　空気神社建立奉賛会のみなさんの努力によって、世界で初めてという空気を御神体にした神社が七月に完成しました。八月中に自然観を訪れたお客様は、約二万人でそのほとんどの方が空気神社を訪れています。

そして、ホテルに立ち寄って食事をしたり、お土産品を買って下さいますので、売上には良い影響を与えていただいています。

町広報委員
佐藤早苗さん（宿）

佐藤　十月には木、火、土、金、水のモニュメントも完成して、自然観のシンボル的な存在になりつつあるようですね。次にアクセス道路についてはどんな計画なんでしょうか。

白井　建設課が所管で進められていますが、幅員は七m～十mで二車線道路に変わってきます。今年のスキーシーズンまでは大部改良される予定です。

佐藤　冬期間女性ドライバーでも安心して通れる道路が一日も早く整備されるといいですね。

次にイベントやレストラン、売店についてはどうでしょうか。

白井　そうですね。イベントについては、自然観ワインまつりや星空教室、自然市場の開催など四季折々に行っています。しかし日曜や祭日などお客さんが込み合うときには人的に対応できないのが現状です。レストランについては、現在予約制で営業していますが、フリーで利用される方については、喫茶店「そら」や食事処「大地」をご利用いただいております。

売店については、ホテル内に販売コーナーが整いお菓子や漬物など、地元で開発した特産品を販売しています。しかし町の特産品としては、まだまだ品数が足りないのでいろいろなアイデアを出して新たな産物を開発してほしいですね。

やる気のある若者募集

佐藤　自然観に来たときに何時でもレストランが利用できると

ブナの森は大きなセールスポイント

なおいいように思いますが。

白井　そうですね。その通りだと思います。

来春から「ワイン館」も営業を開始しますし、更に多くの方から気軽にご利用いただけるよう努力したいと思います。

自然観建設の目的の一つに、雇用の場の創出ということがあったわけですが、実際営業してみると人手不足を実感させられます。

現在は週42時間体制で勤務していますので、そんなに大変な職場とはいえないと思います。ただ土曜・日曜・祭日が最も忙しい仕事なので勤務日になりますが。そのあたりが、今の若者に受け入れられないのでしょうか。とにかく働く人がほしいですね。

佐藤　そんなに人が足りないのなら無理かも知れませんが、自然に詳しいガイド役を常設してほしいという声に対してはどうでしょうか。

白井　自然のガイドを常設したとして、どれだけのお客様が利用するかということがまず問題でしょうね。それに、現在の人手不足の状況ではなかなか大変だと思います。ただ、興味のある人や学習したい人に対しては、ガイドブックのようなものを準備し、自分で楽しんでいただくというようにはしたいと考えています。

「自然」「清潔」を売りものに独立採算で

佐藤　自然観は何といっても自然を売り物にしているわけですが、これからの経営戦略について支配人としてどのようにお考えでしょうか。

白井　おっしゃる通りで、自然観は自然を一番の売りものとしていますので、まず区域内の自然の保全育成を図る考えです。

しかし、自然といってもほったらかしの自然では魅力がありませんし、危険な場合もあります。ある程度、人手をかけて整備を行うということも必要かと思います。具体的には、現在ある空間を活用して、ナラやブナの木の植樹から手掛けたいですね。

急ピッチで進む道路工事

先日、小学生が、ドングリの実をたくさん拾っていたので、それを自宅に持ち返って畑や庭に植えて、苗木になったらここに来て記念植樹をやろうと話したんです。まあ、そういうやり方も含めて広葉樹林の整備を図りたいと考えています。

第二は清潔さを保つということです。特にトイレはいつも気持ちよく使えるように気を付けています。あとはゴミの始末ですね。キャンプ場などで特に出るわけですが、散乱する前、気付いた時に直ぐ始末するように従業員には指導しています。

経営面については独立採算制

気ままな生活がコテージの魅力

長岡　剛さん
（農業／太郎一）

肉や野菜を持参してコテージで仲間と焼肉パーティー。農業青年団体の若者のグループで時々コテージを利用しています。みんなで料理をつくったり、酒をくみ交したり、隣り近所に気がねなく楽しめるのが魅力です。

自然観に対する評判もまずまずですが、日中遊べるものがあればという意見があります。たとえば、グランドゴルフやローラースケートなど、現在ある施設を使って簡単にできるものなどよいと思います。

何といってもコテージの低料金と自由さがいいですね。

個性ある自然観をアピール

清野美恵さん
（主婦/四ノ沢）

私はスキーシーズンに家族でコテージを利用しています。

コテージの生活は、親子で食事を作ったり、スキーを楽しんだりゆっくり、のんびりして暮します。

いろいろ話を聞くと、もっと遊ぶ施設があればいいという意見もあるようですが、私はこれ以上つくらなくてもよいと思います。散歩や読書、それに芝生に寝ころんだりするのが一番のぜいたくではないでしょうか。

これからは、施設の数や種類ではなく、自然観らしさをつくり、それをアピールしてゆくことが大切だと思います。

を堅持するということです。そのためにはいろいろ工夫をしなければなりません。例えば料理については山麓の味を出すため、できるだけ、ここにある素材を使って調理ができないか常に研究してます。

また、グルメということでは、たとえば「ふぐ」や「あんこう」などの料理を季節的に設定したり、バラエティーに富んだメニューにしようとがんばっています。

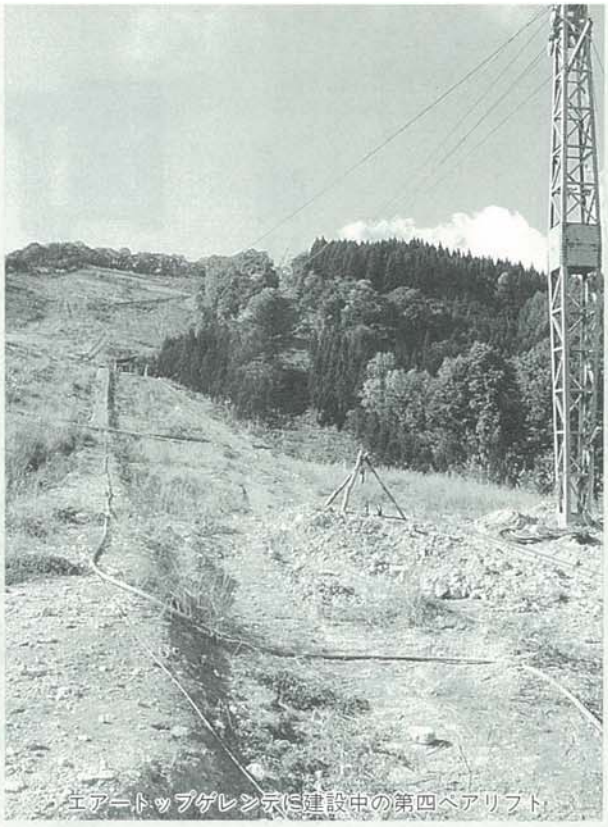
従業員の研修という点では、「山形県観光アカデミー」というサービス業に携わる人たちの研修機関がありますが、そこに出来るだけ研修に行かせ、質的向上を図っているところです。

佐藤　自然観に来た人たちは、暇を持て余してしまうという話がありますが、朝日町の観光地などを巡るコースを案内するなどという方法はないのでしょうか。

白井　そうですね。二、三泊するお客様は、大抵自家用車でお出でになりますので、遠方の方には、蔵王や月山など全国的に有名な観光地などを紹介しますが、だいたい二十キロ～三十キロの行動半径のようです。ですから、朝日町の素晴らしいところ、例えば、大沼の浮島や観光果樹園、最上川の眺めなどを生かすことがとても大事なことになると思います。

それと同時に、紅花資料館や慈恩寺などと連携を持った広域的な観光という面でも十分検討しなければならないと思います。

佐藤　そうですね。今日はいろいろお話をうかがいましたが、21世紀を目指して建設された私たちの自然観。町民みんなが自慢できる施設として私たちも大いに応援しますので、支配人さんもどうぞがんばって下さい。本日はお忙しいところありがとうございました。



エアートップゲレンデに建設中の第四ペアリフト

朝日自然観主な事業費

●ホテル自然観（宿泊定員57名）	4億5,400万円
●コテージ　17棟	8,400万円
●ゲレンデ　14.8ha	1億　500万円
●リフト　3基	4億　400万円
●ワイン館・テニスコートほか	1億2,200万円
●圧雪車　2台	5,500万円
ほかに電気、水道、汚水施設あり	
総事業費	20億6,600万円

社内研修に利用したい

鈴木廣美さん/助ノ巻
（㈱東北コーオン朝日工場長）

私の場合は、取引き先のお客様の出張や接待に利用しています。

これまでは、寒河江市内のビジネスホテルや、旅館を利用していましたが、料金やサービスの面でも変わりがなく、なにより町の宣伝になればと思い利用し始めました。

お客様の話を聞くと、道路整備は遅れているものの、清潔な建物と、美しい自然に感動するということをおっしゃるようです。

これからは、会社の社内研修などにも利用したいと考えています。

従業員の生き生きした仕事ぶりに関心

堀　いくさん
（主婦／舟渡）

自然観の利用については、家族や遠来のお客様がいらっしゃった時など利用しています。

一番感じることは、従業員の方の親切で生き生きした仕事ぶりです。みなさん一生懸命働らいているのが分りますね。

また料理についても、山里の味を大切にし、温かい物は温かいうちに、冷たい物は冷たくして出して下さいますので好評でした。

自然観がスタートして、まだ一年。収支状況だけで判断することなく、長い目で見守り育てていくことが大切なように思います。

町政スポット

〝朝日消防〟を全国に披露

第12回全国消防操法大会

見事敢闘賞に輝く

操法員と指導者の団幹部のみなさん

日本消防協会主催の第十二回全国消防操法大会が横浜市の日本消防協会中央訓練場において十月十二日開催されました。

この大会に山形県代表として出場した当町選手団は、四月より六か月間、連日訓練に訓練を重ねました。その間、秋田遠征、横浜遠征、消防学校入校を行い、「全国に示せ朝日の心意気！がんばれ朝日町消防団」を合言葉に各選手とも、仕事を持ちながら、日夜懸命に努力し頑張って来ました。

十月四日に行なわれた壮行会では、「鍛えぬいた技と力を思う存分発揮したい」という力強い決意表明がなされ、町民の期待を一身に受け大会二日前に当町を出発。会場近くのグランドを借用し、最後の調整に汗を流しました。大会当日は交通混雑を考慮し、早朝五時に宿泊先を出発。

前日、夜行で応援にかけつけた各地区の消防後援会長や各選手の家族、それに消防団幹部OB、消防第一分団第一部OB会（宮宿）、さらには部長以上幹部など総勢五十名の応援団も到着。さらに大会が始まる九時頃には、西村山郡管内の各市町消防団も応援に駆けつけて、空気神社のぼりも立てられて応援態勢も万全。

十時五〇分、いよいよ朝日町消防団の出場となり、「集まれ」「番号」の指揮者の号令で操法が開始されました。選手は日頃の訓練の成果をいかんなく発揮し、おしくも総合入賞は逸したものの、公式発表されたタイムにおいて日本一に輝くなど、見事な操法を披露し、敢闘賞に輝きました。

出場選手

総括者	高橋久仁彦（大町）
指揮者	長岡　和浩（本町）
一番員	高坂　秀幸（大町）
二番員	松田　勝美（栄町）
三番員	滝川　芳己（本町）
四番員	今井　一彦（大町）

初の町民栄誉賞に　近藤洋子さん

十一月二日、ホテル自然観のレストラン「スジェール」で朝日町町民栄誉賞の授与式が行われました。

この賞は、スポーツや芸術などの分野で、輝かしい業績をあげた町民並びに当町に縁故の深い方を表彰し、その栄誉をたたえるために制定されたもの。

第一号の受賞者となった近藤洋子さん（栄町出身）は、九月に行われた第二十九回全日本女子剣道選手権大会において見事優勝した功績が認められたものです。

式では、小林町長から表彰状と栄誉章（純銀製メダル）が近藤さんに贈られました。

女子剣道日本一の近藤さんに初の町民栄誉賞が授与された

教育の振興発展に貢献

町の教育功労者七名を表彰

受賞者のみなさん

十月二十五日、町中央公民館で七名の方が教育功労者として表彰されました。

●若月啓二さん（西船渡）
教員として三十二年、その間永年に亘り町立学校に勤務し、教育の振興に貢献。

●鈴木吾郎さん（大舟木）
昭和五十二年より八年間大舟木分校ＰＴＡ会長を歴任し、その後さらに同校の宿直代行者として学校の維持管理に尽力。

●小松又一さん（大暮山）
昭和五十一年より八年間大暮山分校宿直代行者として学校の維持管理に尽力。

●竹田正人さん・ゆきさん（東京都）
母校和合小学校に思いを寄せ図書充実基金として多額の寄付をなされ、教育の振興に貢献。

●石川　堯さん（東根市）
地域スポーツの普及に努めスポーツ振興基金に多額の寄付をなされ町のスポーツ振興に貢献。

●柴田喜一さん（大滝）
昭和五十七年上郷ソフトボールスポーツ少年団を結成し、子どもたちの健全育成と地域スポーツの振興に貢献。

●渡辺一雄さん（前田沢）
昭和五十五年より十年間夜間照明管理人として、地域スポーツの振興に貢献。

ログハウス風トイレが誕生

大沼浮島公園

十月一日、大沼浮島公園の駐車場と稲荷神社の間に、高床式のトイレが完成しました。

これまで、同公園には湖畔の家のトイレしかなく、訪れる観光客のみなさんにはたいへん不便をかけていたもの。

完成したトイレは、合併処理浄化槽を完備した水洗式で約一千万円で建設されました。

地元では、これを機に公園全体の整備が図られ、多くの観光客が訪れてくることを期待しています。

環境衛生シンポジウム

「緑と暮らしのシンフォニー（調和）」をテーマに十一月一日、町中央公民館に町内外から百六十名の参加者を集め、環境衛生シンポジウムが開催されました。

はじめに、山形大学人文学部教授の柴田洋雄先生から「暮らしの質と環境」と題し基調講演がありました。その中で、家庭から出されるゴミの減量化については自然に還元することや再利用できる物は再利用することはもちろん、古い物の良さを見つめ直すことの大切さを力説。時代を経た物の良さを認めることが私たちの生活の〝質〟を高めることにつながり、そのことが自然に対する思いやりにも通じることであると解説されました。

続いて行われたパネルディスカッションでは、それぞれの立場からゴミについていろいろな意見が出されました。

町連合婦人会長の阿部良子さんは「ゴミを出す時はまず、燃えるものと燃えないものを分別すること。ゴミの減量化については、使い捨て製品はなるべく使わないことや過剰包装はことわるなど消費者自身が気を付けることが大切」と発表。

町衛生組合長の海野敬次さんは、「私たちは被害者であると同時に環境汚染の加害者であることを認識することが大事」と述べました。

また、エコミュージアム研究会代表の西沢信雄さんは「子供会の廃品回収を単なる資金集めに終らせないで、自然の大切さや環境問題の学習の場としてはどうだろう」という提言が出されました。

基調講演をなさった柴田先生からは「朝日町の町民が最上川をきれいにしようと立ち上がると他の市町村も追従してくる。朝日町は環境問題の先駆者であるという気構えをもって進んでほしい」と訴えられました。

秋の一日町内めぐり

カメラさんぽ

私たちが住んでいる朝日町には、国の名勝地「大沼の浮島」や「秋葉山」などすばらしい史跡や文化財があります。また、特産の「りんごとワイン」をつくり上げた豊かな自然や風土は私たちの宝です。

十月二十一日に行われた町民文化講座からその宝をひろってみました。

今年は、ブドウのできがよいためワインのできも最高と説明をうける参加者たち

国指定名勝大沼の浮島

ワイン工場

ワインの製造は、昭和十九年に軍事用酒石酸の原料をつくったことから始まります。昭和二十七年頃からは酒造メーカーの下請としてワイン醸造を手がけ、昭和三十年に山形朝日果実酒製造有限会社として設立。昭和五十年には、町、農協、生産者の共同出資という新体制でスタートしました。

現在は、貯蔵容器一万リットル三十基を備え、年間二十八万リットル（びん詰にして三十五万本）が生産され、年商一億四千万円を誇る町の顔となりました。

秋葉山

秋葉山楯は大谷の東、国道二八七号沿いに標高二三四・六㍍、広さ約一〇㌶の偉容で存在し、頂上に秋葉神社跡や三角点があります。

眼下に最上川や用山の明神崖。まわりには粧坂のよそおい、猿田楯、真木山城、大江町の数多くの楯や城跡を眺望することができます。

この楯山の頂上から下へ、曲輪（くるわ）、帯曲輪、空堀、土塁、堀切、虎口（こぐち）などの遺構が認められ、この楯は、真木山城の別丸であり、猿田楯と同様に対敵の見付塁として、中世時代に形成されたものと考えられています。

秋葉山の頂上で城あとについての解説に耳をかたむける

浮島稲荷神社で歴史の深さを体感

かっての神社跡に建立された石碑

空気神社に見入る人たち

大沼の浮島

大正十四年十月八日、史跡名勝記念物として名勝地の指定を受けた「大沼の浮島」は、周囲七七三メートル、面積二万九千平方メートルです。

歴史は古く天武帝の九年（六八一）山岳修験者役の証覚によって発見されたと伝えられ、古来より注目され近世文人墨客の訪れも多く、橘南谿（たちばなんけい）（一七五四～一八〇五）の「東遊記」によって全国的に紹介されたといわれています。

湖畔には伝説に富む史跡を残し、沼に多くの緋鯉の遊泳する風情は格別です。

空気神社

古来、万物を生成する根源は五行（木・火・土・金・水）であるとされている。こと五つの働き（五気）を包容し、この世に生きるものの生命を保持し形成を促すのが空気である。

「空気の恩恵を人間は忘れている。世界にさきがけてわが町に空気神社を造ろう」と、故白川千代雄さんが提唱したのは昭和四十八年である。この遺志を継ぎ更に自然崇敬の深まりを願って昭和六十三年に「空気神社建立奉賛会」を設立、世界に類例のない神社を平成二年七月に建立する。

（空気神社の由来より）

ひろば

■連絡先
役場企画情報課
企画広報係へ
☎67―2111（内222）

苦楽をともに50年
金婚祝賀会開催

十月十六日、いもがわ温泉で結婚生活五十年を祝う金婚祝賀会が開かれました。

参加者は、昭和十六年に結婚された二十三組のおしどり夫婦。太平洋戦争開戦の年に結婚し、戦時中に新婚時代を過ごしたとあって、記念写真を撮る姿は、とりわけ夫婦仲の良さがうかがわれました。

祝賀会では、はじめに、熊坂助役から一組一組に賀詞と記念品が贈られました。そのあと祝宴に入り、歌や踊りに楽しい一日を過ごしました。

苦難の時代を乗り越えてめでたく
金婚式を迎えられたみなさん

"自然・ふれあい・文化の町"
テーマに芸術文化祭

第二十六回朝日町芸術文化祭が十一月三日、四日の両日、中央公民館と町民体育館、それに西部・北部公民館で各種展示や芸能発表などが、にぎやかに繰り広げられました。

三日の初日には中央公民館で芸能発表会が行われ、十二の団体が歌や踊り、演劇などに日頃の活動の成果を披露。

さらに、同日の夜には同文化祭の特色といえる移動芸能発表会が大滝公民館で行われ、集まった人たちは、身近な会場での歌や踊りの発表に楽しいひとときを過ごしました。

日頃の活動の成果を発表
しあった芸能発表会

舟渡/堀　敬一くん（大谷小６年）
浩司くん（大谷小４年）
渉　くん（５歳）
堀　きく子さん（62歳）

ぼくのおばあちゃんは、菊の花をつくるのがとても上手です。家の前にはたくさんのはち植えの菊がならんでいます。

おばあちゃんは、朝早くから裏の畑で野菜作りにせいを出しています。おばあちゃんが作ってくれるかぼちゃパンや、大根づけはとてもおいしいです。

時々、ぼくたち三人におこづかいをくれるやさしいおばあちゃん、いつまでもじょうぶで長生きして下さい。

町民の

このひろばはみなさんのページです。話題やご意見、作品など、ご自由にお寄せ下さい。

隣のリンゴ家族

堀ひのき (23)

ひとことトーク

鈴木広之さん
（小原・29歳）

好きです！ あさひまち
～朝日ナチュラリストクラブで活躍中～

自称アウトドア派の私は、朝日ナチュラリストクラブの子供達と観察会などで自然に親しんでいます。夏はカヌーや登山、冬はバードウォッチングや炭焼き体験など、指導をするというより一緒に遊ぶといった方がぴったり。この子供達が大人になった時、朝日町の自然の中で遊んだり学んだりしたことを少しでも思い出してくれたら…と思っています。

来春からは、月山に開園予定の山形県自然博物園のボランティア解説員として参加し、勉強するつもりです。

朝日町にもまだまだ知らない所や素晴らしい所がたくさんあります。町外の観光地を回るのもいいですが、まず、自分の足元を見直そうと思っています。

ふるさと人国記 7

鈴木幸次郎
―朝日町の初代議会議長―

若い日の夢は、たとえ夢で終っても、やがて新しい形となって芽をふき出してくる。生れた風土に生きるとき、その夢はなだれのように、からだに溢れて流れ出すのである。ふるさとへ限りない愛情を注ぎつくした人の生涯は、この上なく尊い。

大正五年三月、山形師範学校を卒業した幸次郎は、寒河江・柴橋・西五百川の各小学校訓導を歴任したが、高等師範に学ぶ夢をいつも抱いていたと言う。からだの不調から断念はしたが、若い幸次郎の胸に溢れていた夢は、いったい何であったろう。

明治二十九年三月二十日、旅館業大丸屋二代目、鈴木幸吉氏の長男として生れた彼は、幼いときから健康ではなかったが、常に摂生につとめ、教師を退職した大正十年に今井商業銀行に勤め、その後合併した山形両羽銀行に引きつづき勤めた。

昭和二十二年四月に宮宿町議会議員に当選、議長となる。昭和二十九年十一月の朝日町誕生に伴って初代町議会議長となり町立病院建設、都市計画、電源開発等の懸案の実現に手腕を発揮する。昭和三十七年十二月には町長に当選。四十三年の明治百年祭終了を期に、健康上の理由で辞職するまで、議長・町長の職を十四年勤めた。

からだをいたわりながら、一途に町創建のために精進しつづけた業績は偉大であり、昭和四十一年十一月には勲五等旭日章を受けている。

昭和四十四年十月十三日午前四時二十分没。七十三年の光を残し巨星は空に還った。

文・杉ひさし

区有林を〝松茸林〟に

第1回 栗木沢きのこまつり

十月二十八日、栗木沢農村公園に子供からお年寄まで全区民が集まって、区有林から採れた松茸の収穫を祝う「きのこまつり」が行われました。

この松茸は、区有林に自生しているもので、昨年までは一部の人が採っていましたが、これをなんとか村づくりに結びつけられないかと、管理人を設けて春先から下刈りなどを行ったもの。九月下旬から出始めた松茸は約百本、最高のものは一本で三百八十グラムという大物もありました。

まつりは、松茸ぶかし三十キロ、松茸酒五升、それに、〝サクラモタシ〟や〝ホウキタケ〟などを入れたきのこ汁がふるまわれ、きのこ一色。

佐久間清夫区長さんは、「今後は、区有林を益々手入れして、全山松茸林にしたい」とはりきって語ってくれました。

〝松茸酒〟で収穫を祝う栗木沢区民のみなさん

〝りんご〟もぎとりに大歓声

海の子、山の子仲良し学校

今年で九年目を迎える「海の子、山の子仲良し学校」が十月二十四日、清野和夫さん（古槇）のりんご畑などで楽しく行われました。

この交流会は、昭和五十六年に鶴岡市立三瀬小学校と送橋小学校・水本小学校の三校が姉妹校の盟約を結んだのが始まり。毎年七月には送橋、水本の子供たちや父兄が海水浴に三瀬を訪れ、りんごの季節になると三瀬の子供たちが当町を訪れるというものです。

今回は三瀬小学校の五年生三十七名と、父兄三十三名が来町。りんごのもぎとりや交歓行事など一日交流を深めました。

りんごのもぎとりを楽しむ子供たち

花を植えて心和む集落づくり

八ツ沼婦人会

10月10日、八ツ沼地区を明るく希望の持てる集落にしようと、同地区の婦人会が自発的に公民館周辺を整備しました。

早朝５時30分からの作業には、会員25名が自宅に植えてあるシバザクラやスイセンなどを持参。２時間の作業で、公民館はすっかり花園に変身しました。

支部長の登坂富さんは、「自分たちの住む地域は、自分たちの手で美しく、住み良いものにしたいと始めました。これからも継続的に行って花で心和む集落にしたいですね」と語ってくれました。

早朝作業を行った八ツ沼婦人会のみなさん

伝言板コーナー

ビニール袋やトレイ類は最少限必要なものを

（匿名・主婦）

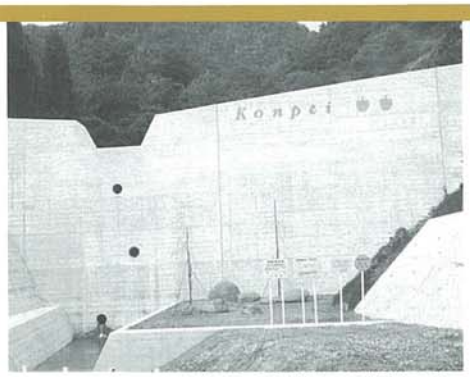
最近嬉しいニュースがありました。町のあるスーパーで買物袋を持参すると一円くださることになったというのです。毎日たまる買物袋の多さに困っていた私は大変嬉しくなりました。

家庭で出るゴミは、生ゴミはコンポスターなどで堆肥として使い、紙は燃やして始末し、もちろん缶やビンは危険物として出すわけですが、一番困るのは燃やそうと思えば燃えるビニール袋や発泡スチロールなどのトレイ類です。これらのものは燃

ふるさとめぐり〈7〉

心をひとつにして村づくり

今平



りんごのマークが今平を象徴する砂防堰堤

町の最南端、そこに緑豊かで人情熱い今平地区がある。村は白鷹町との町堺でもあり西置賜郡との郡堺でもあるため、古くから置賜との交流が深く、これまでに数多くの縁組が生まれている。

村の基幹作物はリンゴで、現在十八名（阿部正敏組合長）で構成されており、以前は〝おかめ〟印の今平リンゴとして東京などに出荷されていたが、現在は農協共選に加入している。ほとんどが兼業農家である。

今、村では工事が相次いで行われており活気に満ちあふれている。その一つは町道の工事であり、もう一つは、三年がかりで一億六〇〇〇万円を投入し完成した砂防堰堤である。堰堤には村のシンボル、リンゴとKONPEIの文字が描かれ、桜の木二本も植えられている。これからは村の〝名所？〟になりそう。来年度はこのすぐ下流に消雪プールの建設が始まり、これが完成するとこれまで雪の捨て場がなく困っていたのが一気に解決する。

村は小さくとも、区長さんを中心に、住みよい村づくりをめざす今平。これからも工事の音と、子供達の明るい声が山合いに、こだますることだろう。

（小松　敬　広報委員）

朝日町のみなさん

ブナの種をありがとう

10月7日行われた空気まつりで、1,000個のブナの種を付けた風せんが大空へ飛ばされました。各地からお手紙や電話をいただいていますが、その中から、宮城県古川市の中学生大平美沙子さんのお手紙を紹介します。

朝日町のみなさんへ

はじめまして。私は宮城県古川市に住む中学二年生の女の子です。去る10月8日の朝、犬の散歩の途中でみなさんが飛ばしたブナの種が入った袋がついている風せんを拾いました。最初はただ何か落ちているなぁと思って通り過ぎようとしたのですが、よく見てみたらブナの種が入っている袋がついている風せんだったのです。私は感激してしまいました。なぜかといえば、そういう種の付いた風せんが飛んできて、それを拾った人がその種を一生懸命育てたりする光景にあこがれていたからです。まだ、種は植えていませんが、もうじき植える予定です。そして、袋にも書いてあったとおり、かけがえのない緑の大地を守っていくため大切に育てていきたいと思います。

やすとダイオキシンなどの有毒ガスが出ると何かで読み、やはりためて危険物に出すしかないと思うのですが、それにしてもこれらのゴミの多いのには参ってしまいます。

今年から危険物は透明なビニール袋で出すことになり、注意して見てみるとどうもほとんどが缶やビン類で、ビニールやトレイ類は少ないようです。やはり多くの家庭では燃やしているのかもしれません。その時に、どれほどの有毒ガスが出ているか心配です。また、これらのゴミの処理場も満杯になっているということです。

これからは私達も環境のことを考えてゴミを出さない工夫が大切ですが、お店の方でも、燃やしても安心なトレイを使用していただくか、必要なトレイは最少限に押えていただくようお願いしたいものです。

「納豆大豆」収穫ツアー

神奈川県藤沢市から22名来町

十一月三日、杉山集落の大道地区で、納豆用大豆の収穫体験ツアーが行われました。

今回ツアーに参加した方は、六月同様神奈川県藤沢市のみなさん二十二名。朝もやの中、稲刈りがまを片手に、無農薬・有機農法で栽培した極小大豆「地塚大豆」をみんな和気あいあいと刈り取りました。収穫した大豆は「究極の納豆づくり」の材料となります。

刈り取りに精を出すツアーのメンバー

豊かな実り、ときわう秋

水本小の交歓・交流学習

稲の取り入れも終わって、無袋ふじが真っ赤に色づく今日このごろ、標高四百メートルを越える水本地区も豊かな実りの秋を迎えています。

朝日町と山辺町の境目に位置する、ここ朝日町立水本小学校（宮地文七校長）では朝日町水本と山辺町畑谷・北作地区の子どもたちが、共に仲良く学んでいます。

児童数二十九人、複式三学級の構成で小規模校ながら、幼児学級も併設されていて、十人の幼児でいつもにぎやかです。

学区・PTAが一体となってねばり強い運動を展開し、木造二階建てのシックな校舎が完成したのは昭和最後の頃、六十三年十一月のことでした。

以来はや二年たち、〝新しい校舎に新しい魂〟を吹込む教育に、学校・地域が一丸となり、取り組んできました。

本校の教育活動特色はなんといっても他校との交歓・交流学習が盛んなことです。

これは、小規模・へき地の子どもたちの共通の欠点といわれる視野の狭さや、刺激のとぼしさを少しでも解消し、積極的に他と接しようとする態度を身につけさせていこうとするものです。

沢内三校の集合学習

この秋は交流学習が相次ぎ、子どもたちも大忙し。

皮切りは朝日町沢内集合学習です。和合・送橋・水本小の三校が集い、昭和五十七年から続けているもので、今年で九年目になります。

一年生から六年生の全校児童が参加します。年間五回、三校が持ち回りの会場となり、五月の開校式に始まり、十月の閉校式までの間にさまざまな活動を通じて、友情を深め合っています。

内容としては、器楽の合奏や体育のゲームなど、普段は人数が少なくてできない教科学習や総合学習（紙ひこうき、たこつくり、和合選果場見学など）です。

＊

閉校式

四年　岡崎　美穂香

「シャシャンがシャンシャン、シャシャンがシャン。」

ここは、和合小の体育館。沢内集合学習での楽しかった半年もこの閉校式で終わりです。そして、その閉校式の一番最後の行事が、この「朝日音頭」なのです。

みんな両手に小さなボンボンをもって、輪をつくります。

私は心をこめて踊ります。

「朝日山から流れる川の水水の……。」

みんなが、いっしょうけんめい。話声ひとつ聞こえません。

赤、青、黄のボンボンがまるで花のようで、すごくきれいです。

＊

西村山駅伝競走大会 完全優勝に輝く

—各種競技会 成績報告より—

十月十日（体育の日）に行われた、町民駅伝競走大会を始め、西村山郡・町のロードレース大会、西村山地区駅伝競走大会など各種大会が行われました。

西村山地区駅伝競走大会では、完全優勝というすばらしい成績を上げました。

結果は、次のとおりです。

☆第七回アップル町民駅伝競走大会（10月10日）

優　勝　和合A
準優勝　沢内A
第三位　大谷風神
第四位　三中かもしか
第五位　上郷A
第六位　常盤A

☆第25回西村山地区秋季ロードレース大会（10月21日）

●高校・一般の部

優　勝　斉藤　和彦（杉山）
準優勝　海野　宏行（送橋）
第三位　菅井　繁美（大隅）

●中学校男子の部

優　勝　海野　裕喜（送橋）

それに、高学年は金峰少年自然の家での宿泊体験学習、低・中学年は寒河江・山形・庄内方面等への遠足を行っています。

子どもたちにとっても身近な仲間とふれあう格好の舞台であり、教師にとっても互いに刺激し合い、学び合う場となっています。

山大附属小との交流学習

山の学校と都市の学校の交流活動として、昭和三十八年からこれを実施しています。今年度は、二十八年目になります。

五・六学年どうしの交流活動になりますが、水本小会場の今年は、水本小全校児童が空手の演技を披露しました。

＊

附属小とのつり大会

五年　伊淵美穂

附属小の五・六年生が摂待口のバス停に着きました。私は友達ができるかなあ、と心配になりました。

開校式が無事に済んで、土屋みゆきさんのおじいちゃんが草をかって準備してくれた、近くの沼でつりを始めました。

「かかった、かかった。」と歓声をあげる人。なかなかうまくいかずあせっている人。さまざまです。

つりをしている間、名前やしゅみを聞いたりして、奈穂ちゃんとゆうこちゃんと友達になりました。つりの楽しさに時間を忘れてしまいました。足早に水本小に向かいます。

校舎わきの農村公園で、さっそくいも煮会の準備です。ブロックのかまどに、杉のたきぎで火をつけていきます。

楽しい、附属・水本男女混合班の会食。附属小の女の子によそってもらって、照れる剛君、吉治君、浩君。

＊

今年度から、一年おきに交互に訪問し合う交流活動を組み、多忙化の中でも充実したひとときを子どもたちに持たせたい。そんな強い願いをこめて、計画にあたっています。

来年度は、付属小を訪問してお好み焼き作りや焼き物に挑戦します。

海の子・山の子仲良し学級

昭和五十六年、水本・送橋小と鶴岡市の三瀬小学校との間に仲良し学校の盟約が結ばれました。山の学校と海辺の学校の親善交流のスタートでした。

年間二回、夏にはこちらの二校が三瀬の海を訪れ、秋には三瀬小が水本・送橋小を一年おきに訪問します。

今年は夏休みに入って、七月三十・三十一日、一泊二日で紺碧の海に集いました。

真っ黒に日焼けした、たくましい三瀬小の子どもたち。三瀬小は、五・六年生のみで、水本・送橋小は三年生以上が参加し、海や浜で交流します。特に、三瀬の子どもと班を組んでの海水浴は、どの子も楽しみにしています。

＊

楽しかったすいか割り

四年　高橋　由香理

青い海。かんかん照りの熱い砂浜。足が焼けそうです。

「もう少し右、右、右。ちょっと左。」

みんながひっしに声えんを送ったり、からかったりします。三瀬も水本も送橋もない。みんながひとつのすいかに夢中です。

やっと私の出番です。胸がどきどき、とまりません。

「もうちょっと前、前、前。」

と愛さんが自分のことのようにあせった声をかけてきます。

＊

庄内浜に夕日が沈み夜を迎えると、きもだめしの時間です。真っ暗な気比神社にこだまする不気味な声に泣きだす子も。この日は、三瀬の坂本屋旅館で快適な夜を過ごします。

次の日も、浜遊びや海水浴、それに五百メートルの遠泳に挑戦する子どももいます。短い夏を満喫して、バスにゆられて帰途につくのです。

秋には、三瀬小の子どもが訪れます。

十月二十四日、薄曇りの中、三校児童とPTAが一緒になって、西平でりんご狩りに興じ、県民の森で秋を楽しみました。

豊かな実りの秋。学校も一年で最も忙しい時期です。交歓・交流学習の意義を洗い直し、豊かな実りのある交流活動にするために、日ごろの精進を心がけています。

（教育広報委員　多田秀人）

第三位　鈴木　秀和（元町）

《総合成績》

●高校・一般の部

優　勝　朝日町

●中学校男子の部

優　勝　朝日中（六連覇）

☆第23回町民ロードレース大会（10月28日）

●小学校男子の部

優　勝　佐竹　正敏（宮宿小）
準優勝　布施　和行（宮宿小）
第三位　阿部　康史（上郷小）

●小学校女子の部

優　勝　清野　恵（宮宿小）
準優勝　海野さつき（宮宿小）
第三位　柴田　由香（上郷小）

●中学校男子の部

優　勝　海野　裕喜（送橋）
準優勝　伊藤　司（能中）
第三位　熊谷　忍（小原）

●女子の部（中学生以上）

優　勝　佐藤　寛子（大谷四）
準優勝　相座いづみ（送橋）
第三位　武田　恭子（真中）

●高校・一般の部

優　勝　海野　宏行
準優勝　菅井　繁美
第三位　早坂　健一

☆第37回西村山地区駅伝競走大会（11月6日）

優　勝　朝日A（完全優勝）
第六位　朝日B

こせきのまど

■10月1日～31日届出

すこやかに（出生届）

区名	出生児氏名	父名
前田沢	熊谷 秋穂（あきほ）	保勝
西町	西田 喜一（りゅういち）	淳
大暮山	小松 龍一	正明
下芦沢	渡邊 愛実（まなみ）	正文
真中	鈴木 三奈（みな）	孝幸
西町	名和 浩貴（ひろき）	浩治

やすらかに（死亡届）

区名	死亡者氏名	世帯主
西原	阿部福太郎	祐吉
真中	林 隆照	ハルエ
栗木沢	遠藤 ちね	昭一
大谷三	白田 はつ	千代喜

おしあわせに（婚姻届）

宇津野	村山 君子	利行
西町	長岡みよし	吉美
西船渡	海野 春雄	康一
栄町	武田 藤雄	光雄
前田沢	熊谷 榮一	良夫
大沼	最上 やす	祐一
宿	菅井 安雄	康正
大町	布施 伊助	邦芳
真中	小野 重信 ♡ 田中佳鶴子	山形市
白鷹町	今野 則之 ♡ 星野 美幸	宇津野
前田沢	清野 修 ♡ 渡邊 弘子	山形市
杉山	浅岡 恵一 ♡ 郷野 美幸	最上町
大谷五	長岡 重則 ♡ 大島 三抄	山形市

●社会福祉協議会へ寄付金

町連合婦人会（阿部良子会長）から、「十一月三日の町芸術文化祭の折行った食堂の売上金の一部ですが、恵まれない方のために」と現金一万円をご寄付いただきました。

◇第11回朝日町産業まつり

■とき　11月24日(土)～25日(日)

■ところ　町民体育館・農業団地センター

■内容

・りんご皮むきフェスティバル

・りんご品評会

・高齢者ゲートボール大会

・町内外業者による即売会

◇第2回北部地区婦人ビーチバレーボール大会

■とき　11月25日(日)　午前8時30分開会

■ところ　北部体育館

◇第9回西部地区家庭婦人バレーボール大会

■とき　11月25日(日)　午前8時開会

■ところ　健康増進センター　西五百川小学校

●太郎二／村山　康二さん
真知子さん

さわやか新婚さん

2人は同級生。中学時代からの交際は、別々となった高校時代も続き、同じ会社へ就職。学生時代は特別に意識してなかったそうですが成人式が終わってからは急接近。休日はドライブ、特に毎年必ず行くという五色沼コースがお気に入りとか。10年以上の長い付き合いの2人を、友達や社内では結婚は当然とみていたようです。

お互いのやさしさにひかれたという2人ですが、康二さんは「明るく気軽に遊びに来れるような家庭に」、真知子さんは「何でも相談ができ友達のような関係でいたい」と語ってくれました。

（斉藤文子　広報委員）

人口と世帯数

●平成2年10月31日現在

人口		10,686（−10）
	男	5,290（−11）
	女	5,396（　1）
世帯数		2,589（−2）

（　）内前月比

春夏秋冬　編集後記

「活気があってすばらしい」「山並みや最上川が何ともいえない魅力があってホッとする」「おもしろい町民やがんばっている人達が多い」などなど。これは、わが町を訪れた人々からよく聞かれることばだ。

いま町外からの視察者が相次いでいる。十月だけで十九団体約五百人近くにのぼる。目的は自然観開発と産業おこしや合併処理浄化槽、生涯学習と公民館活動、後継者対策のとりくみなどなど。北は北海道から南は鹿児島県まで。宮城県のある町では二百人の全職員が二班に分かれて自然観に訪れている。

先のことばは外交辞令といえばそれまでだが、自然や特産にこだわりながら町民あげてとりくんできた姿が、注目を集めつつあるということだろう。人材も資源もあふれている。おもしろい町づくりはこれからだ。（S）